

平和



ヒロシマ平和メディアセンター

http://www.hiroshimapacemedia.jp/

基町高生聞き取り重ね描く

8歳の物語「子どもも励ます内容」

小倉さん(右端)から広島の復興の様子を聞く
横山さん(左端)たち

基町高(広島市中区)創造表現コー
スの2年生たちが、小倉桂子さん
(82)の中区IIの被爆体験を聞き取り
絵はいすれも柔らかい筆致。小倉さ
んは、今後の証言活動で活用してい
くつもりだ。

小さな子どもの心に届けようと、
紙芝居と絵本を作成してい
る。小さい子どもの心に届けようと、
に飛ばされたことや、大やけどの人
に水をあげると目の前で息を引き取

る。牛田町(現東区)の自宅前で爆風
に吹き飛ばされたことや、大やけどの人
が各地で広がってほしい」と話す。

(桑島美帆)

動画UP!



小倉さんと基町高の生徒たちの打ち合わせの様子を、ヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイト「動画で平和発信」のコーナーにアップします。



▲広島あの日の体験紙芝居や絵本で長崎

▼西日本新聞から

家族失った悲しみ心込め朗読 熊本の高校生

1945年8月9日の長崎原爆で家族5人を亡とした石原照枝さん(83)、熊本市IIの体験を伝える紙芝居の上演会、熊本被爆世の会主催が熊本県庁ロビーであり、核兵器廃絶の活動に取り組む高校生たちが朗読した写真。会場で見守った石原さんは「次の世代が体験を引き継いでくれればうれしい」と話した。

石原さんが長崎市から三十数年離れた母の知人宅に疎開していた9歳の時、原爆が投下された。爆心地近くにいた17歳の娘が、3人は手足を吹き飛ばされ焼死した。妊娠8ヶ月だった母は戸板に乗せられて疎開先に運ばれてきたが、8月16日に亡くなつた。おなかの赤ちゃんは死産だったという。

紙芝居では、母恋しさから母を火葬する火に飛び込みそになつたこと、生き残った父やきよだいも白血病やがんに苦しんだことを取り上げた。朗読した県立第二高2年の島崎亜希子さん(17)は「体験談に衝撃を受けた。戦争の事実を正確に伝えたい」と話す

ジュニアライターがゆく



中間さん(右から3人目)とロゴマークのアートディレクター、中間大介さん(49)に2日間のワークショップ

ワークショップ

70のキーワード図に

ロゴマークを作るため、広島市中区の広告代理店「みづま房」のアートディレクター、中間大介さん(49)に2日間のワークショップ

外国人向けロゴ 広島をPRする 一からデザイン

PR

3案完成

大鳥居や慰霊碑 折り鶴サークル 一笔書きのハート



下半分の赤は厳島神社の大鳥居の色です。しゃもじと、もみじ、まんじゅうを加えました。左上は

平和記念公園の原爆慰霊碑です。青は瀬戸内海の佐々木禎子さんについて知つてもらつたためです。

アートディレクター納島さん 「抽象的なデザインに」



この取材は、高2川岸言織、佐藤西、フリリックス・ウォルシユ、高1柴木優里奈、中3岡島由奈、桂千葉、中1儀子尋が担当しました。

こつを聞く



納島さんは、平和をテーマにしたポスターを作成する際、心掛けていることがあります。原爆の残酷さをストレートに訴えるよりも、抽象的なデザインを取り入れることです。「背景にはどのような意味やメッセージがあるのでどうか」と考えてもらうデザインだと、見る人にとつて「深く印象に残る」と話していました。

お薬で大腸をガードしてください。

納豆菌・乳酸菌・ビフィズス菌のトリプル生菌が、生きたまま大腸へ。大腸を正常な状態に改善していきます。

大腸の不調に効くガードα整腸錠α+は、納豆菌・乳酸菌に加え、ビフィズス菌を配合。胃酸に弱いといわれる乳酸菌とビフィズス菌を制酸成分で守り、納豆菌とともに生きたまま大腸に届くように处方設計されています。そしてこのトリプル生菌が、同時に配合のバントン酸カルシウムと力を合わせ、大腸内を善玉菌優位な環境に誘導。医薬品の効果で、大腸を正常な状態に改善していきます。

第3類医薬品

アルファスリーブラス
ガードα整腸錠α+



おなかのハリ ガス溜まり 便秘 軟便

大腸が良くなれば、さまざまな症状も治まっていきます。

食事の洋食化、さらにストレスや加齢。
こうしたさまざまな要因で大腸の負担が増加傾向になると、「おなかのハリ」「ガス溜まり」「便秘」「軟便」といった症状が現れやすくなります。

お求めはドラッグストア・薬局・薬店などで